

令和8年度

吉野川市立知恵島学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 主体的に学習に取り組む態度を育成するための指導方法の工夫と改善
- 意見がつながる話し合い活動などの伝え合う活動の充実

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告・連絡・相談・確認等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身につけており、与えられた課題に真面目に取り組む児童が多い。 ●長文を正確に書いたり読み取ったり、身につけた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	・学習課程を通じた学びを既習の知識と関連付け、他の学習や生活の場面に当てはめて活用できる。 ・問いの意図を理解し、長文の要点を構造的に捉えて、根拠に基づいた記述ができる。	①朝の学習の時間や家庭学習の時間を使い、発展的な内容のプリント学習や個々に応じたタブレット学習の時間を設ける。 ②長文を正確に読むための語彙の量と質の充実に向けた読書活動を推進し、学びをアウトプットする機会を設ける。 ③研究授業を通して、相互に授業参観を行う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○発表の話型が身につけており、自分の伝えたいことを文章化しておく、場に応じて伝えたいことを考え、表現できる児童が多い。 ●感じたことや学習したことから必要な情報等を取り入れて、自分の考えをまとめたり、発表等で表現したりする力の個人差が大きい。	・相手に伝えたり、記述したりして自分の思いを表現し、意見がつながる話し合い活動ができる。 ・相手の反応や質問に応じて、必要な情報を自分で選び、自分の言葉で細く説明等の工夫をし、自信をもって伝え合うことができる。	①アウトプットの心理的ハードルを下げるために、ペア学習やグループ学習の機会を日常的に設定する。 ②集めた情報を整理する時間を設け、ホワイトボードやICTでの発表において、思考ツールを積極的に活用する。 ③授業の終末に、授業での気づきや学んだことを文章化したり、話し合ったりして振り返る時間を設ける。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○どの学年においても、与えられた課題や宿題を真面目に取り組むことができる。 ●難しい問題は、解説を待ち、自分から進んで解こうとしない児童もいる。	・各教科の学習において、自分一人で解決できない課題に対し、友達の考えをヒントにして自身の考えを更新しようとするができる。 ・単元ごとに見直しをもって学びに向かい、試行錯誤を楽しむ中で、何を学んだのかを自身で振り返ることができる。	①主体的に学習に取り組めるように、学校全体でアウトプットを促す仕掛けを授業に組み込む。 ②各教科の授業で、児童が主体的に学習できるように、自力解決の時間を設定したり、学習形態を工夫したりする。 ③家庭学習や自主学習の手引きを作成し、児童が意欲的に取り組めるようにする。 ④「家庭学習がんばりカード」等を通して、教員が肯定的なフィードバックを行う。			